

# 青春の記録

七月二十八日から八月二十日に、二十九競技で熱戦を繰り広げた、平成二十年度全国高等学校総合体育大会「彩夏到来08埼玉総体」。ここでは、市内の高校から出場し、入賞もしくはベスト8に入った選手の方々の記録をご紹介します。



表彰台で、賞状とメダルを手にする新井さん



ポイントレースで力走する新井さん(右)

## 自転車競技

ポイントレース24km優勝

個人ロードレース104km5位

川越工業高校2年・新井翔太さん

「地元開催のプレッシャーはありましたが、緊張せずにレースに臨めました。ポイントレースは優勝できて満足ですが、ロードレースは悔しい気持ちがあります。来年は、ポイントレース2連覇とロードレースの表彰台を目指します」

## 自転車競技

スプリント5位

川越工業高校3年

馬場和広さん

「表彰台に上がれなかったのが、この結果に満足はしていません。国体では日本一が目標です」



## 自転車競技

4km速度競走8位

川越工業高校3年

中尾佳祐さん

「全国のレベルの高さを感じました。全国大会での入賞は初めてなので、うれしいです」



## 自転車競技

ケイリン8位

川越工業高校2年

小林竜大さん

「皆さんの声援で実力以上の力が出せたと思います。力を付けて、全国大会で活躍したいです」



## 自転車競技

ロード学校対抗4位・トラック学校対抗6位

総合学校対抗5位(ロードとトラックの合計)

川越工業高校(馬場さん▶中尾さん▶3年・山崎輝夫さん▶3年・小巻和仁さん▶3年・野口翔吾さん▶新井さん▶小林さん)

「両親やOBの皆さんの応援が、背中を押してくれた結果だと思います。さらに上を狙えるように頑張ります」と自転車部部長の馬場さん



左から新井さん・山崎さん・中尾さん・馬場さん・小巻さん・野口さん・小林さん



## 新体操競技

女子個人・フープ5位 星野高校1年・土屋言さん

「特に、表情に気を付けて演技しました。もっと練習して、次は今回より少しでもいい成績を残したいです」



前列左から原田さん・土屋さん  
後列左から鈴木さん・小室さん・豊田さん

## 新体操競技

女子団体7位・星野高校(3年・小室遥香さん▶3年・鈴木絢子さん▶2年・豊田恵里佳さん▶2年・原田亜美さん▶土屋さん)

「テーマ曲は白鳥の湖。手先と足先を使って、優雅さを表現しました」とチームリーダーの小室さん

## ソフトテニス競技

男子個人準々決勝進出

川越東高校2年・大熊友也さん  
同校2年・川尻鈴ノ助さん

「優勝で県予選を通過したので、もう少しいい成績を残したかったです。来年のインターハイも頑張ります」



川尻さん(左)・大熊さん



## 空手道競技

個人形準々決勝進出

川越西高校3年  
山口竜司さん

「夢の舞台に出場できて、うれしかったです。とても緊張しましたが、自分の力を出し切ることができました」

## モンゴル少年野球チーム、来たる！

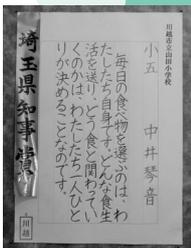
7月31日、10歳～14歳の選手15人で構成されたモンゴル少年野球チームが、川越を訪れました。蔵造りの町並みや市立博物館などを見学したあと、初雁



試合前に、両チームと関係者全員で記念撮影。中央がモンゴル少年野球チームの皆さんです

球場で大東スポーツクラブ6年生チームと対戦。大東スポーツクラブの皆さんも、「初雁球場でモンゴルのチームと試合なんて、めったにない経験ができてうれしい」と大喜びです。試合が始まると、モンゴルチームのベンチからは「タエバン（リラックス）」「ブンブゲハラ（ボール見て）」など、絶えず大きな声が飛びます。「日本の野球を吸収して、少しでもうまくなって帰りたい」と、積極的なプレーで奮闘するモンゴルチーム。試合は、大東スポーツクラブの勝利で終わりました。試合後、両チームの子どもたちに話を聞くと「またいつしょに試合したいな」「今度はモンゴルで試合をしたい」。ことばは通じなくても、心は十分に通じ合いました。

## きれいな字を書くために……



県教育委員会などが主催する平成20年度第47回埼玉県硬筆中央展覧会で、山田小学校5年の中井琴音さんが最優秀賞にあたる埼玉県知事賞を受賞しました。「お母さんと展覧会を見に行ったら、埼玉県知事賞になっていたのでびっくりしました。翌日、家族全員でまた見に行っていました」と、うれしそうに話す中井さん。左の1枚のために200枚近く書いたそうです。字を上手に書く秘けつを聞くと、「1つ1つの字をていねいに、最後まで集中して書くことかな」と、教えてくれました。



運動大好き、元気な女の子です



演奏する曲は「元禄」。一般的な吹奏楽に和太鼓などを組み合わせることで、時代を表現しています

「先生や仲間がいつしよだから頑張ることができません。大会では、いつもどおりの演奏をしたいです」と同部部長の小高悠夏さん（三年）。全員で力を合わせて、さらに上を目指します。

ここ数年は、地区大会を突破できなかった同部に、転機が訪れたのは昨年十二月のクリスマスコンサート。納得できない演奏をしたことが、部員全員の意欲を変えました。練習を自分から進んで、実力と自信が着実に身に付いてきています。

大会に挑みます。

夏休み中でも、鯨井中学校の体育館から聞こえてくる、軽やかな演奏。同校吹奏楽部は、第四十九回埼玉県吹奏楽コンクール県大会で金賞を受賞しました。三十五人の部員全員で、九月十三日に山梨県で行われる西関東大会に挑みます。

鯨井中学校吹奏楽部

